

## 2-2 現況、動向、課題

前節では、これまでの都市づくりについてふりかえりましたが、この節では今日の札幌の都市づくりがおかれている状況を、現況（（1）都市の現況）、動向（（2）都市をとりまく状況の変化）、課題（（3）生じている現象・課題）の3つの側面から整理します。

### （1）都市の現況

札幌は、開拓期からおよそ130年余の比較的短期間で、185万人を超える人口を擁する大都市へと成長しました。とくに、多雪・寒冷という気候特性の中で大都市としての成長を見たことは、世界的にも類例がなく札幌の大きな特徴といえます。

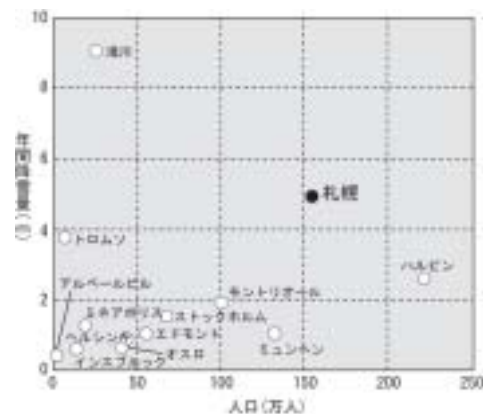
また、開拓当初から計画的な都市づくりを進めてきたことにより、基礎的な都市基盤は全国的に見ても高い水準で確保されています。

#### 世界的にも有数の北方圏の大都市

- ◇多雪・寒冷地（年平均降雪量約5m）
- ◇明瞭な四季
- ◇市域の2/3を占める森林
- ◇人口規模は約185万人（全国第5位）
- ◇市域面積は1,121km<sup>2</sup>（全国第3位）

※数値は平成14年度末時点

■北方都市の人口と年間降雪量



〈資料〉第4回北方都市会議（平成2年）  
「ウィンターシティレポート」

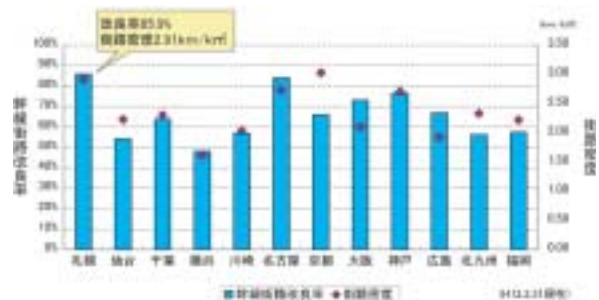
#### 高い整備水準にある基礎的都市基盤

- ◇都市計画道路改良率<sup>注</sup>は87.2%
- ◇下水道普及率は99.4%
- ◇上水道普及率は99.8%
- ◇公園・緑地整備率は  
市民一人当たり25.3m<sup>2</sup>
- ◇地下鉄総延長は48km

注) 都市計画道路改良済延長(km) / 都市計画道路計画延長(km)  
改良済とは、道路用地が計画決定どおりに確保され、自動車交通に供用開始されている状態

※数値はいずれもH14年度末時点

■政令指定都市の都市計画道路(幹線街路)の整備状況



注1 道路密度: 幹線街路計画延長(km)/市街化区域面積(km<sup>2</sup>)  
注2 幹線街路改良率: 幹線街路改良済延長(km)/幹線街路計画延長(km)

〈資料〉札幌市（平成13年）

## (2) 都市を取り巻く状況の変化

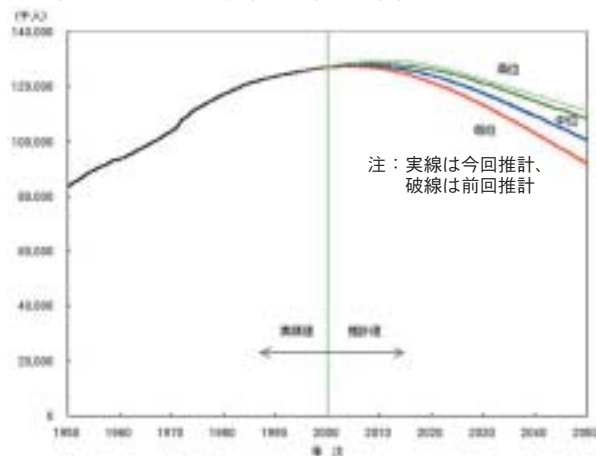
これまでの都市づくりは、人口や産業の急速な集中に対応し、これを支える都市基盤を計画的かつ効率的に整備することが主要な課題となっていました。

しかしながら、今日、都市を取り巻く状況は以下のように構造的に変化してきています。

### 人口増加の鈍化と少子高齢化の進展

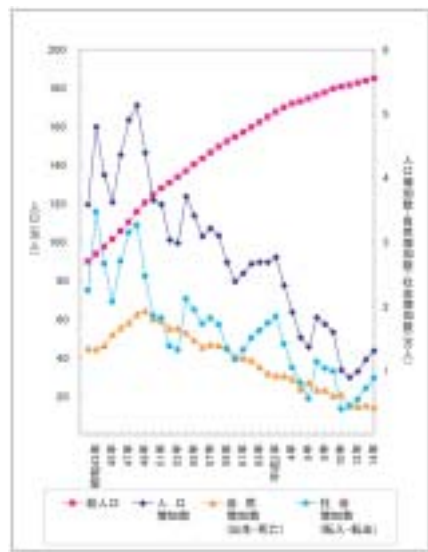
- ◇日本の総人口は数年後には減少に転化
- ◇札幌の人口増加も近年では緩やかに
- ◇出生率も低下が続く傾向

■日本の総人口の推移(低位・中位・高位)



〈資料〉 国立社会保障・人口問題研究所  
「日本の将来推計人口」(平成14年)

■札幌の人口の推移(自然増・社会増)



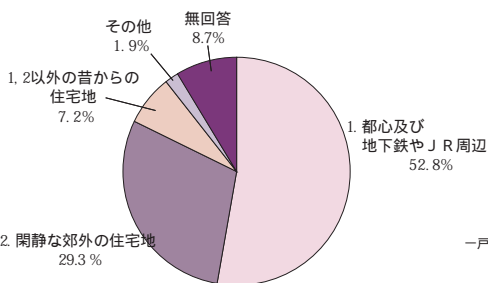
〈資料〉 札幌市住民基本台帳(平成14年)

### 価値観やライフスタイルの多様化

- ◇さまざまな世帯構成と居住ニーズ
- ◇SOHO\*<sup>11</sup>など新たな勤務形態

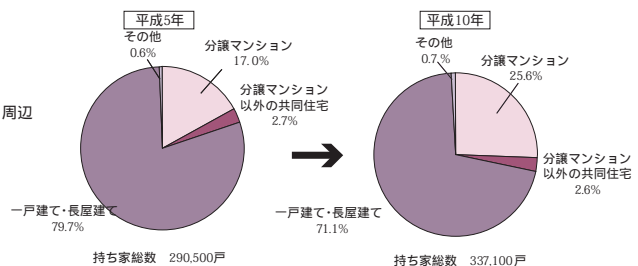
■高齢者の居住意向

～高齢者向け賃貸住宅の立地条件～



資料 札幌市『さっぽろの住まい』(平成13年)

■札幌の持ち家に占める分譲マンションの割合



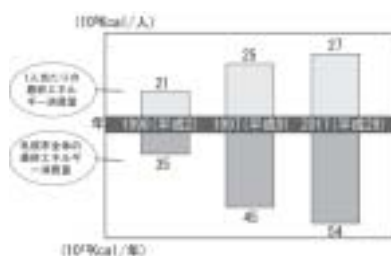
資料 札幌市『さっぽろの住まい』(平成13年)

\*11 SOHO スモール・オフィス・ホーム・オフィス (Small Office Home Office) の略。パソコンやインターネットを活用し、自宅や小さなオフィスで仕事をする勤務形態。

## 地球環境問題の深刻化

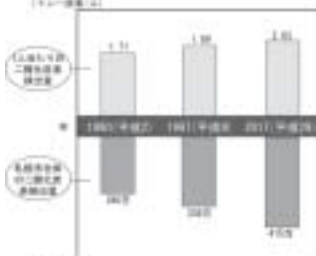
- ◇生活様式の変化に伴うエネルギー消費量の増大
- ◇多雪・寒冷である札幌の二酸化炭素排出量は、冬期間の暖房や自動車利用によるものが高い比率を占める状況

■札幌のエネルギー消費の推移



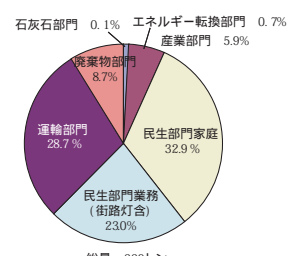
〈資料〉札幌市「環境白書」(平成14年)

■札幌の二酸化炭素排出量



〈資料〉札幌市「環境白書」(平成14年)

■札幌の部門別二酸化炭素排出量

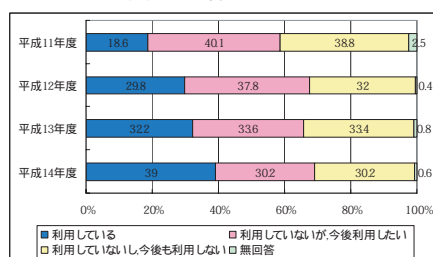


〈資料〉札幌市「環境白書」(平成14年)

## 経済・情報のグローバル化\*12と地方分権

- ◇情報通信技術の発展
- ◇都市の魅力が国境を越えて競われる時代へ
- ◇さまざまな施策・事業の決定権の国からの移譲

■インターネットの普及状況



〈資料〉札幌市「平成14年度 第1回市民アンケート」

## 急激な都市の拡大の終焉

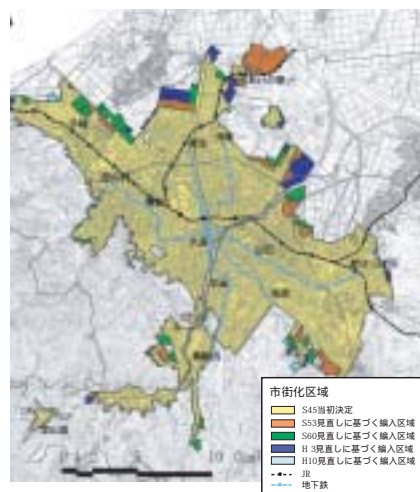
- ◇市街地の拡大傾向は近年鈍化

■市街化区域面積の変遷

年		市街化区域 面積(ha)	前回見直し からの拡大 面積(ha)
昭和45	当初線引き	22,010	—
昭和53	第1回見直し	23,220	1,210
昭和60	第2回見直し	23,449	229
平成3	第3回見直し	24,104	655
平成10	第4回見直し	24,706	602
平成14	平成14年3月26日現在	24,738	32

〈資料〉札幌市(平成14年)

■市街化区域の変遷



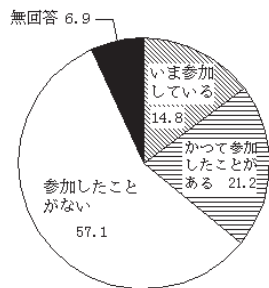
〈資料〉札幌市(平成14年)

\*12 グローバル化 人や物、資金、情報の国境を越えた移動が地球規模で盛んとなり、政治や経済などさまざまな分野での境界線がなくなることで、相互依存の関係が深まっていく現象。

## 都市づくりへの市民の関心の高まり

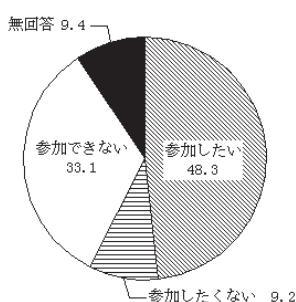
- ◇まちづくり団体、NPO\*13の活動の活発化
- ◇市民のまちづくりへの意識の高まり

■市民活動への参加経験

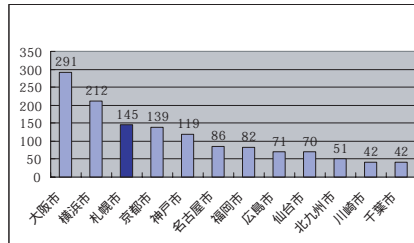


〈資料〉札幌市「平成11年度第1回市政モニター」

■今後の市民活動への参加意向



■NPO法人登録数

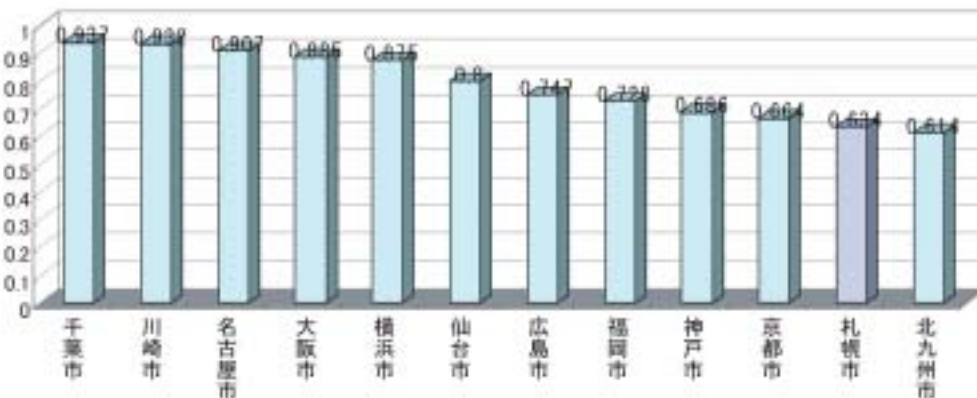


〈資料〉札幌市(平成14年)

## 財政状況の制約

- ◇平成14年度の札幌市の予算総額は、政令指定都市への移行後初の前年比減
- ◇増え続ける雪対策予算

■政令市財政力指数\*14の比較



〈資料〉札幌市「財政ハンドブック」(平成14年)

■雪対策予算の推移



〈資料〉札幌市(平成14年)

\*13 NPO Non-Profit Organizationの略。非営利組織のこと。政府や私企業とは独立した存在として、市民・民間の支援のもとで社会的な公益活動を行う組織・団体。  
 \*14 財政力指数 地方公共団体の財政力を示す指数で、標準的な行政を行うときに自ら賄える財源の割合。税収の偏在是正を目的とする地方交付税の配分上の指数で、1に満たない部分が国からの地方交付税によって措置される。

### (3) 生じている現象・課題

都市を取り巻く状況が変化する中（(2)参照）、具体の都市づくりの現場では、以下のような今日的課題も生じています。

いずれも、これまでの都市の拡大期における課題とは対照的といえるものです。

#### 課題

一層多様化し散発的になされる都市開発に対して、全市的観点からの方向づけと明確な対応方針が必要です。

#### 生じている現象例

- ◇市街化調整区域における開発の動き
- ◇商業施設の大規模化と郊外での立地動向の高まり

#### 課題

社会・経済の変化に対応し、土地利用規制や施設整備の考え方を見直すことも必要になっています。

#### 生じている現象例

- ◇利用目的を厳格に限定して土地利用規制していた用地の長期遊休化
- ◇将来に備えて確保していた学校用地が不要となる事例

#### 課題

形式的基準に基づく画一的な対応だけでは、新たなまちづくりの課題に応えることが難しくなっています。

#### 生じている現象例

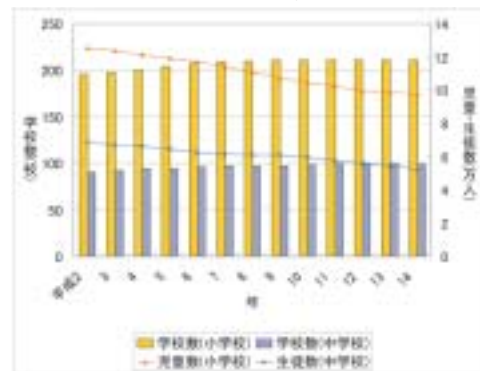
- ◇地区ごとに多様な履歴を持つ既成市街地では、都市づくりの課題が多様化・複合化
- ◇容積率緩和などの基準の画一的な運用と地域の実情とのかい離

■平成12年度以降に出店した、店舗面積6,000㎡以上の大規模小売店舗



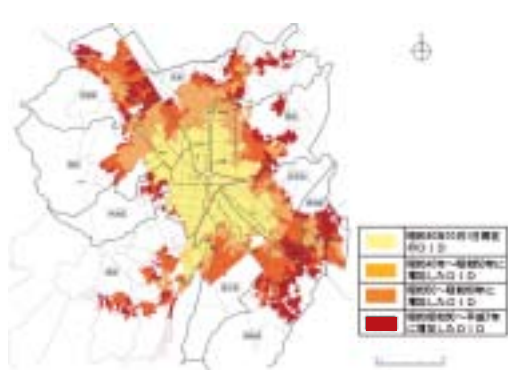
〈資料〉札幌市（平成14年）

■学校数と児童・生徒数の推移



〈資料〉札幌市『札幌市の教育』（平成14年）

■多様な市街化履歴（人口集中地区(DID)<sup>\*15</sup>の変遷)



〈資料〉札幌市（平成14年）

\* 15 人口集中地区 (DID) DIDは、Densely Inhabited Districtsの略。国勢調査に基づき設定されるもので、人口密度が40人/ha以上の調査区（約50世帯を含む地域）が市区町村内で連たんして人口5,000人以上となる地域。

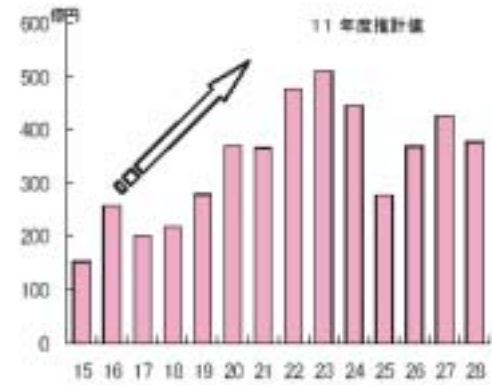
## 課題

限られた財源をより有効に活用しながら、都市づくりの施策を効果的に進めていく必要があります。

### 生じている現象例

- ◇ 厳しい財政状況下で公共施設の更新期が今後集中的に到来
- ◇ 一律平等の公共投資の限界
- ◇ 交通問題を土地利用との関係から検討する必要の高まり

## ■ 将来の公共施設の更新費用推計



〈資料〉札幌市「平成14年中期財政見通しと今後の財政運営の考え方」

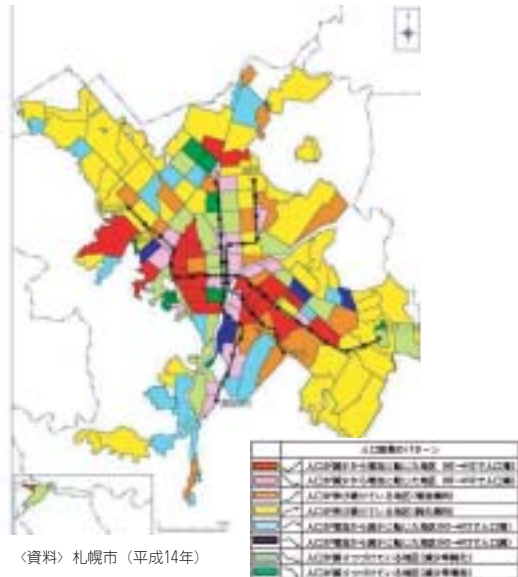
## 課題

個別的な市街地の更新が進められる中、地域ごとの明確な共通価値を見出すことが難しくなっています。

### 生じている現象例

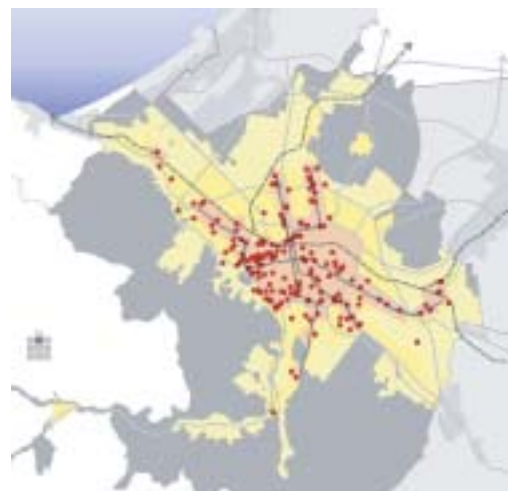
- ◇ まちなかのマンションが新たな居住形態として定着しつつある一方、建設をめぐる問題の複雑化と調整の長期化

## ■ 平成2～7年と平成7～12年の人口動態の比較



〈資料〉札幌市 (平成14年)

## ■ H13年以降竣工した分譲マンションの立地動向



〈資料〉札幌市 (平成14年)